

# 地域ウオッチ

3

「歩き」がキーワード

城乾地区の名物つて何でしょう？ 太助灯笼、秋寅の館、ヘンロ小屋……。

そう、「ヘンロ小屋丸亀城乾」をご存じですか。寿覚院の南側、県道沿いにあるうちわをイメージした歩き遍路のための休憩所です。遍路文化の継承を目的に、ボランティアグループが四国4県に89か所造る予定だとか。平



こんびら街道まち歩きでヘンロ小屋を紹介

## 城乾「ミニユニティ通信員」

今月のレポーター  
西本町 林 誠彦



成18年11月に、当所は県内で初めて完成しました。ふだんはミニユニティで管理し、ふれあいまつりでは、お遍路さんにもうんのお接待などもしています。

こんびら街道まち歩きも有名ですね。ガイドを務める小阪修二さんの「昔、ここに橋がありました。そこは川です。危ない」など名調子は楽しく、勉強にもなります。丁石、道標、常夜灯などの史跡巡りをしてみませんか。

最後は城乾小学校。丸亀尋常高等小学校として開校したのが明治43年で、今年がちょうど100年にあたります。記念誌を編集中で、11月14日に記念式典を開く予定です。ミニユニティも応援しています。卒業生のみなさん、市民のみなさん、ご協力をよろしく願います。

# 丸亀 今昔

まち・むら・しま ②

## 丸亀藩の成立と丸亀城再築

生駒氏の讃岐支配が続いていれば、現在の丸亀城は存在しなかった。しかし、いったん取り壊された丸亀城は、その後、再築される。寛永17年(1640年)、全国的に有名なお家騒動(生駒騒動)によって、生駒氏は事実上の改易処分(お家取りつぶし)を受け、出羽国(秋田県)に追いやられる。幕府は17万石余りの地を二つに分け、東を親藩の松平氏に、西を外様の山崎氏に治めさせる。ここに、松平氏の高松藩12万石余りと、山崎氏の丸亀藩5万石余りが成立し、讃岐の二藩時代が始まる。

丸亀藩には城がないため、いったん取り壊された丸亀城が再築されることになった。丸亀に入

## 丸亀城下町の形成

城の再築とともに、寂れていた城下町建設も急速に進んでいく。国立文書館に「正保絵図」と呼ばれる城下図(市資料館で控え所蔵)がある。山崎氏が正保年間に幕府に提出したこの絵図は、丸亀の町がどのように造られていったかを知り得る貴重な史料である。

絵図には「古町」「新町」という記述が、所々に見られる。「古町」とは、山崎氏が入封した時に既に存在していた町、つまり生駒藩時代に造られた町である。「新町」とは、山崎氏が入って来てから造られた町、おそらく地図作成当時に建設中の町と考えられている。何も書かれていない一帯は、まだ町が建設されていない土地である。

この絵図で「古町」「新町」「無記入地」が現在のどこに当たるか調べてみよう。



「諸国城郭絵図」(正保絵図) 1645年 国立公文書館蔵

## いつも笑顔で!

63

平尾 義一彦  
(原田町・81歳)



親しみを込めて「先生」と呼ばれる元教師の平尾さん。現役時代の苦労話や教材として作った広島「いろはカルタ」の制作秘話など、話はつきません。「今はゆったりとした気持ちで、老人会の活動を楽しんでいます」といふ。地域でのふれあいを大切にしています。

## 城辰剣友会



「向上心でがんばろう」城辰剣友会は、日本スポーツ少年団の発足当初から加入し、これまでに社会や学校などで活躍する多数の先輩を送り出しています。現在の会員は10人余り。水曜、日曜の午後6時から城辰小学校体育館で「心と身体」を鍛えています。剣道以外にも、夏季キャンプやクリスマス会などのお楽しみ行事を通じ、会員の親ほくを図っています。新入会員募集中です。ぜひお越しください。



〈連絡先〉村山弘(川西町北・28-5290)

「古町」は、現在の御供所町・北平山町・西平山町・塩飽町・南条町・本町に当たる。これらが最も早くできた町である。先に述べた三浦のように、ほかの土地から町人を移住させて城下町は造られる。塩飽町は塩飽諸島から、南条町は阿野郡南条(現在の綾川町)の地からと、先住の地名が町名の由来にもなっている。「新町」は現在の浜町・通町・富屋町・米屋町・魚屋町・松屋町に当たる。城下町の中心部は主として山崎時代に建設されていくのである。

山崎氏は家治から3代目の治

頼に跡継ぎが無かったため、丸亀に入って18年目に改易される。代わって播磨国(兵庫県)龍野から京極高和が入ってくる。京極氏は6万石余りの大名だったが、丸亀藩には5万石余りの領地しかなかったため、旧地に網干領など1万石を残して入封する。万治元年(1658年)、京極丸亀藩6万石の成立である。京極氏は山崎氏の後を受け、城と城下町の建設を続け、完成させる。「正保絵図」で「無記入地」となっている地にも、次々と町が造られていく。

【郷土史家 濱近仁史】